

Southern Cross
2016^{年度} No.10



The Japanese School in Perth
パース日本人学校



2017年 1月 9日発行
Web-site www.japaneseschool.wa.edu.au
e-mail: info@japaneseschool.wa.edu.au

基礎基本



校長 春日二郎

明けまして
おめでとうございます

日頃より多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。本年も変わらず、よろしくお願い申し上げます。

今年も、初日の出を、隣のゴールドパークの展望台から拝むことができました。日本人のご夫婦がおられ、パースへ来てから30年ほど、欠かさず初日の出に手を合わせてこられたとのことでした。

1年の始まりや1日の始まりでの心構え。何か始めるときの心構えが、最後までやり遂げるための心構えや、長くやり続けるための心構えにつながっていくことを実感できる出会いでした。



さて、4学期が始まりました。新しい仲間との出会いがありました。

そして、16日から始まる聴講週間には21名の参加者があります。子どもたちには、日本人学校で身につけてきたことに自信を持って、優しく聴講生に接してほしいとお話いたしました。

授業が始まる前の授業準備、先生が前に立ったときの姿勢、授業の始まりのあいさつ。授業開始の時間は、自分自身を律する大切な時間です。その時間の中で、子どもたちは気持ちを切り替え、45分の授業中に途切れることのない集中力を生み出します。

日々の生活の中で培われた集中力。まず子どもたちに自信を持ってほしいところです。



ところで、その授業について、小学校の1年生の国語の時間が1週間で10時間もあることをご存じでしたか。教科書が上下合わせて265ページ。ちなみに小学校5年生は284ページの教科書を1週間5時間の授業でこなしていきます。学習言語(母語)として日本語が定着した年齢となる5年生は、国語の授業でより難解な日本語の世界を学習しながら、自分の力で、国語の授業以外の時間でも、日本語の語彙力、日本語による創作力を高めていきます。1年生の授業数は、その5年生の2倍。学習言語を身につけ始めた1年生にとって、話して、聞いて、読んで、書いていくことの一つ一つが基礎基本です。教科書に書かれた文字や文の、何十倍もの言語体験がその授業数の中に詰め込まれます。入学してから1年間での子どもたちの日本語力の成長は、目を見張るものがあります。もちろん、2年生でも週10時間の国語の授業が待っています。日本語は世界で最も難解な言語ともいわれますが、最も柔軟性があり、その言語がノーベル賞を生み出しているとも言われています。日本語を学習言語として身につけることは、大変魅力のあることです。その魅力に気づかせていきたい、そこが私たち教員の基礎基本です。

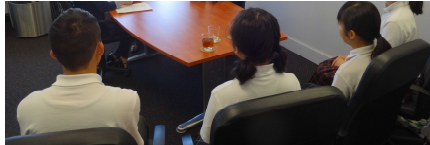
ようこそ ガーザ先生



12月に離任されたホームズ先生の代わりにガーザ先生が着任されます。
海外での経験も豊富で、活動的なChristina Garza先生です。

中学部職場体験学習

12月8日、9日の2日間、中学部1年生・2年生・3年生の4名が、experthにて職場体験をさせていただきました。実際に勤労体験を通して、仕事の厳しさや喜びを実感するとともに、社会を支える人々の生き方を学ぶことができました。



楽しかったキャンプ!

小学部3年生・4年生・5年生・6年生の22名が、12月7日、8日、9日の2泊3日で、Bicklyキャンプ場に行ってきました。各班で企画し準備したレクリエーションを行ったり、Flying FoxやVerticalなどのアクティビティに取り組んだりして、楽しく充実した3日間を過ごすことができました。6年生を中心とした班活動を通して、集団で行動するときの約束や協力することの大切さ、自分自身でよく確認し、考えて行動することの必要性などを学ぶことができました。